



KidZania®

キッズニア白書 2014



刊行にあたって

東京・豊洲に日本初のキッザニアが誕生して早くも7年。これまでキッザニア東京・キッザニア甲子園への来場者数は延べ900万人となりました。日頃街で見かける有名企業のパビリオンが立ち並ぶリアルな街の中で、こどもが大人になりきって社会・職業体験を行うというキッザニアの斬新なコンセプトは、お子さんのいるご家庭なら多くの方がご存知なのではないでしょうか。

「キッザニア体験で、こどもが変わった」「こどもの新しい成長と出会えた」という感想がオープン時より数多く寄せられており、体験者の熱いご支援に感謝いたしますと共に、今後は、キッザニア体験の効果をアカデミックな側面からも研究し、客観的な数値上からも実証してゆく責任があるのではと考えております。この白書では、立教大学現代心理学部との共同研究の結果や利用者の方から寄せられた声などを掲載いたしました。本誌が校外学習先としてキッザニアを検討中の教育関係者やこどもの成長・発達に携わる研究者の方々の参考の一助となりましたら幸いです。

CONTENTS

刊行にあたって	01
キッザニアについて	02
01：キッザニア体験は、こども達にどのような変化をもたらしたか？	05
02：キャリア教育実践プログラム効果の事前・事後検証	17
03：キッザニア・エピソード	25
04：スーパーバイザー・エピソード	32
おわりに	36



キッズニアについて

キッズニア (KidZania) は、リアルな街の中でこども達が職業・社会体験ができる、屋内型の施設です。3才から15才までのこども達が利用でき、キッズニア東京・キッズニア甲子園では、病院や新聞社、商店街、劇場など60以上のパビリオンと約90種類の社会・職業体験が用意されています。

キッズニアの街では、キッツという独自通貨が流通しており、職業体験をするとお給料がキッツで支払われます。こども達はキッツを使って、デパートでの買い物、スポーツクラブなどのサービス体験、銀行窓口での預金やATMでの引き出し、電子マネーへのチャージなどを自由に行うことができます。

そしてキッズニアでは、上記の活動をこども達が楽しみながら学ぶことができるエデュテインメント（エデュケーション「学び」とエンターテインメント「楽しさ」を組み合わせた造語）な場所であることを大切にしています。

Get Ready for a Better World®

キッズニアのコンセプト

エデュテインメントタウン「キッズニア」が育むこども達の生きる力

考える力 Think

創造力 Creativity

行動力 Act

交渉力 Negotiate

チャレンジ精神 Challenge

向上心 Ambition

協調性 Cooperate

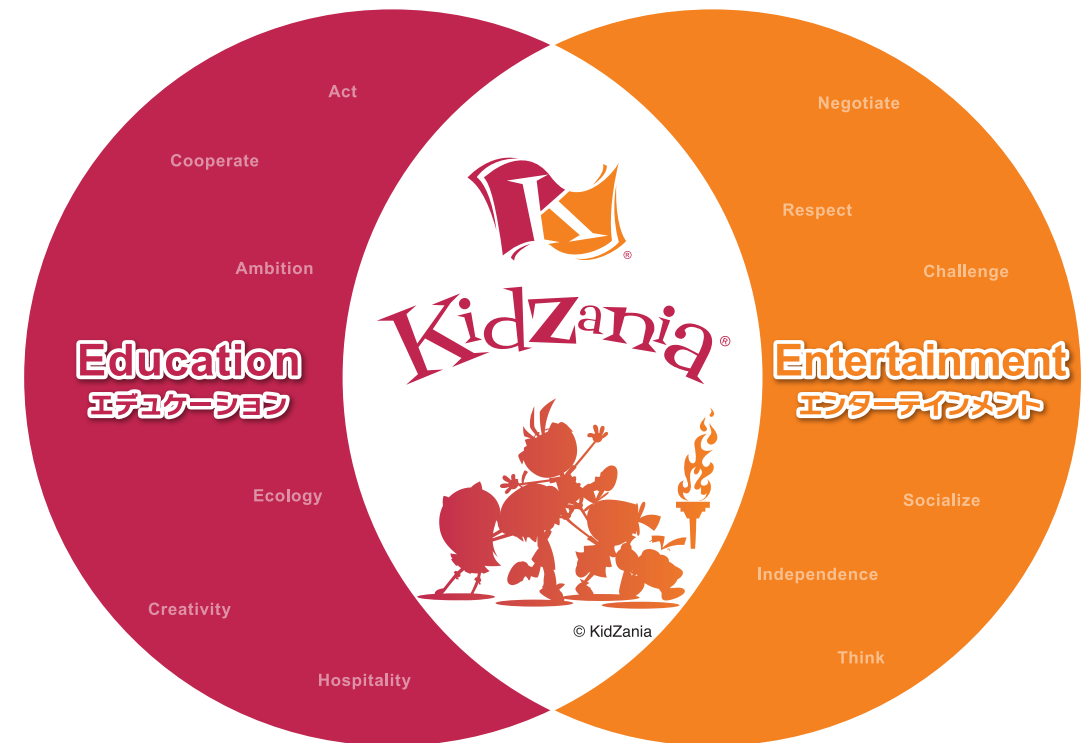
社会性 Socialize

自立心 Independence

エコ精神 Ecology

ホスピタリティー Hospitality

尊敬する心 Respect



パビリオン一覧

- 医薬研究所 (甲子園)
 - 印刷工房
 - ウエディングセレモニー (東京)
 - ウルバノハウス (甲子園)
 - 運転免許試験場
 - エコショップ (東京)
 - エネルギー会社 (東京)
 - 絵の具屋 (東京)
 - お菓子工場
 - おしごと相談センター
 - CMスタジオ (東京)
 - 科学研究所
 - 家電修理センター (甲子園)
 - 観光バス
 - カーデザインスタジオ (東京)
 - カーライフサポートセンター
 - ガソリンスタンド
 - キッザニアの森 (東京)
 - 銀行
 - クライミングビルディング
 - 警察署
 - 携帯電話ショップ
 - 警備センター
 - 建設現場
 - 劇場
 - 裁判所
 - サッカースタジアム (東京)
 - 歯科医院
 - 出版社
- 証券会社
 - 商店街：占いの館 (甲子園)
 - 商店街：エコバッグショップ (甲子園)
 - 商店街：画材屋 (東京)
 - 商店街：ガラス工房 (甲子園)
 - 商店街：花屋
 - 商店街：はんこ屋
 - 消防署
 - 食品開発センター
 - 新聞社
 - 自動車工場 (甲子園)
 - 住宅建築現場
 - ジューススタンド
 - 水道施設 (甲子園)
 - すし屋 (甲子園)
 - スポーツクラブ (東京)
 - ソフトクリームショップ
 - 大使館 (甲子園)
 - 宅配センター
 - テレビ局
 - デザイン教室 (甲子園)
 - デパート
 - 電子マネーセンター
 - トラベルセンター (東京)
 - 動物病院 (東京)
 - 電車 (甲子園)
 - 電力会社 (甲子園)
 - ドラッグストア (甲子園)
 - バウムクーヘンショップ (甲子園)
- 発明工房 (東京)
 - パレード
 - ハンバーガーショップ (東京)
 - 飛行機
 - 筆記具屋 (東京)
 - ビューティーサロン
 - 病院
 - クライミングビルディング
 - ピザショップ
 - ファッションブティック
 - フォトスタジオ
 - 壁画 (甲子園)
 - ベーカリー
 - ホテル (甲子園)
 - ボイラ施設 (甲子園)
 - ボトリング工場
 - ポストレコーディングスタジオ (甲子園)
 - マジックスタジオ
 - 街時計
 - マヨネーズ工場 (甲子園)
 - ミルクハウス (東京)
 - 名刺屋 (東京)
 - メガネショップ
 - 野菜マルシェ (東京)
 - ラジオ局
 - 料理スタジオ (東京)
 - 理容店
 - レンタカー

〈五十音順〉

施設概要

キッザニア東京

東京都江東区豊洲2-4-9アーバンドック
ららぽーと豊洲 ノースポート3階33200

キッザニア甲子園

兵庫県西宮市甲子園八番町1-100
ららぽーと甲子園

営業日 不定休

営業時間 [第1部] 9:00～15:00 (6時間)
[第2部] 16:00～21:00 (5時間)
完全入れ替え制

01

キッザニア体験は、こども達に
どのような変化をもたらしたか？

キッザニア体験価値に関する、大学機関との共同研究

日本のキッザニアを運営する私達KCJ GROUPでは、キッザニアで職業体験を中心とするさまざまな社会体験を行ったこども達が、その後家庭や学校で新しい行動を見せるという体験談を多くの保護者・学校関係者様よりいただいたことをきっかけとして、「キッザニア体験価値」に関する研究を行い、アカデミックな視点からの実証を、複数の学術機関と行っています。今回は立教大学の現代心理学部の小口孝司教授の研究室とKCJ GROUPが共同で研究・発表いたしました「キッザニア体験後」のこども達の変化についての分析概要を紹介させていただきます。

研究協力:立教大学 現代心理学部 小口孝司教授



© KidZania

キッザニアの職業・社会体験を通して、こども達の キャリア意識が高まるか？～内発的動機付けの促進と職業観の進化～

キッザニア体験効果の実証

約7年にわたる日本でのキッザニア運営の中で、来場される保護者のもとより、学校教員、大学研究者(心理学、教育学、保育関連学他)等から、こどもの成長にキッザニアはポジティブな影響を何らかの形で与えているという多数の声をいただいております。そこでKCJ GROUPでは、皆様からの声を背景した次のステップとして、客観的なデータ収集とその分析により、キッザニア体験効果の実証を行うことにいたしました。心理学の専門機関や第三者調査機関の協力も要請し、客観的なデータを得ることにより、こども達のキッザニア体験効果を実証したいと考えました。

立教大学への共同研究依頼

今回の研究では、立教大学現代心理学部の小口研究室にご協力をいただきました。小口研究室では、2012年秋よりKCJ GROUPとの共同研究をスタートし、第一弾研究では、心理学的なアプローチから「キッザニア体験者」「キッザニア非体験者」の比較や、「キッザニア初回体験者」「キッザニアのハードリピーター」比較などを行うことにより、今回の調査の最終目的である「キッザニア体験をしたこども達が、＜キャリア意識＞＜内発的動機づけ※1＞＜職業観＞が高いのか」を統計学的推測によって明らかにできるのかに取り組んでいただきました。

共同研究の方法

KCJ GROUPでは、今回の研究に先立ち、2008年、2010年にキッザニア来場の保護者に対して簡易アンケート調査を実施しました。この結果を踏まえて、小口研究室と共に第一弾となる研究テーマを以下の通りに決めました。
【研究テーマ】「キッザニアの職業・社会体験を通して、こども達のキャリア意識(職業への興味)が高まるか?」「内発的動機づけが促進されるか?」「職業観(働くことに対する考え方)の深化が促進されるか?」

そして、以下の方法で研究を行いました。

■研究1「キッザニア来場者の質問票調査」

■研究2「高校生の質問票調査」

■研究3「大学生の質問票調査」

その具体的調査結果を、次ページより発表いたします。(本誌掲載内容は、研究結果の一部抜粋となりますことをご了承ください。)

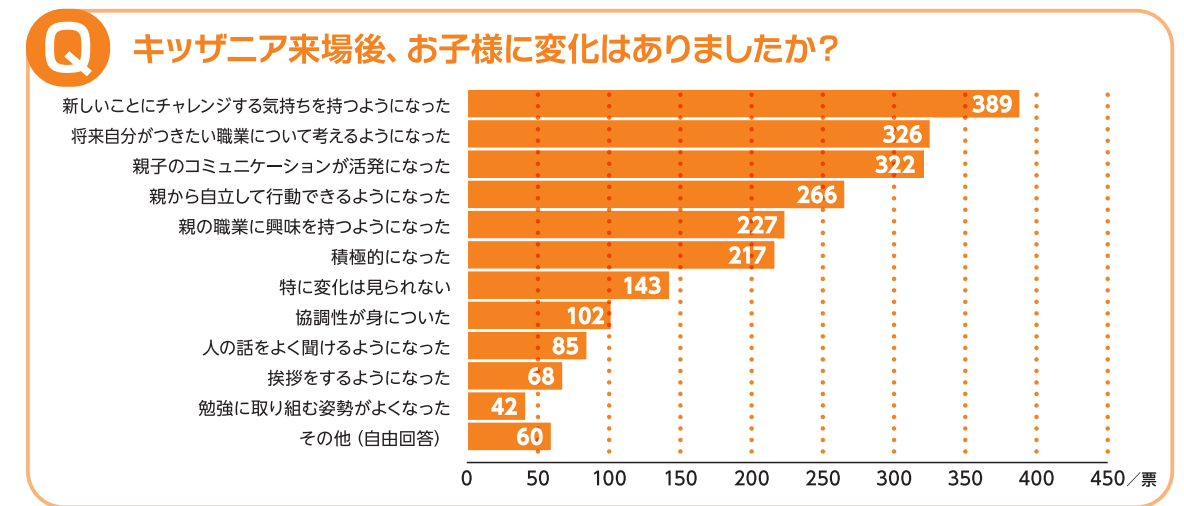
※1「内発的動機づけ」とは
動機づけには、外的報酬を得ることを目的とした「外発的動機づけ」と、心の中の満足感を得ることを目的とした「内発的動機づけ」があります。例えば、資格試験のために勉強するのは外発的動機づけであり、一方、試験がなくても、誰にもほめられたり強制されたりしなくても、自分の知的好奇心のために学んでいるのは「内発的動機づけ」となります。

KCJ GROUP マーケティング部によるプレリサーチ

立教大学小口研究室との共同研究に先立ち、KCJ GROUPでは利用者の保護者を対象としたアンケート調査を実施。これまでに保護者や引率の学校教員、研究者などからいただいた、「キッザニア体験がこどもの成長にポジティブな影響を与えている」というご意見を裏付ける調査結果を得ることができました。

プレリサーチ 1 キッザニア体験後のこどもの「成長」に関するアンケート

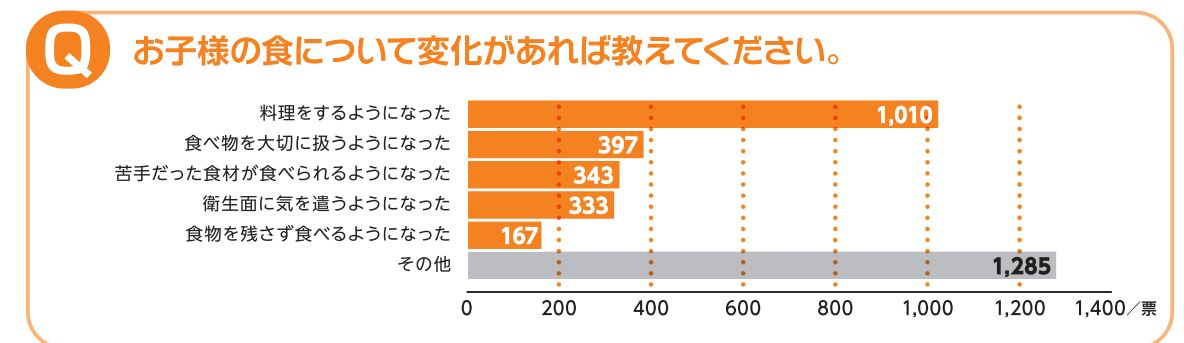
●対象者:3回以上来場した、こどものいる保護者 ●調査実施:2010年1月 ●有効回答:867票(複数回答可)



キッザニアに3回以上来場したことのあるお子様の保護者に、来場後にお子様に変化が見られたかを聞いたアンケートでは、「新しいことにチャレンジをするようになった」「将来自分がつきたい職業について考えるようになった」など、こどもが自発的に行動するようになった変化をあげる回答が多くあげられました。

プレリサーチ 2 キッザニア体験後のこどもの「食育」に関するアンケート

●対象者:2回以上来場した、こどものいる保護者 ●調査実施:2008年4月 ●有効回答:2,868票(複数回答可)



2回以上、来場したことがある保護者を対象とした「食育」に関するアンケートでは、「その他」(1,285件)と回答があったものを除き、「キッザニア体験後、食に関する生活態度に何らかのポジティブな変化が見られた」との回答が約55%(合計2,250票)に達しました。

前述のプレリサーチの結果を受けて、小口研究室によるリサーチを実施しました。

研究結果の概要

- キッザニアでの職業・社会体験は、キッザニアの利用回数が多いほど、子どものキャリア意識にポジティブな影響を与えているという調査結果となりました。また親子コミュニケーションを活発化させ、生活や勉強への積極性を引き出す傾向がみられます。
- キッザニア体験のある高校生は、仕事にワクワク感を求める傾向があり、さらに大学生では職業に達成感を求めるという傾向が明らかになりました。

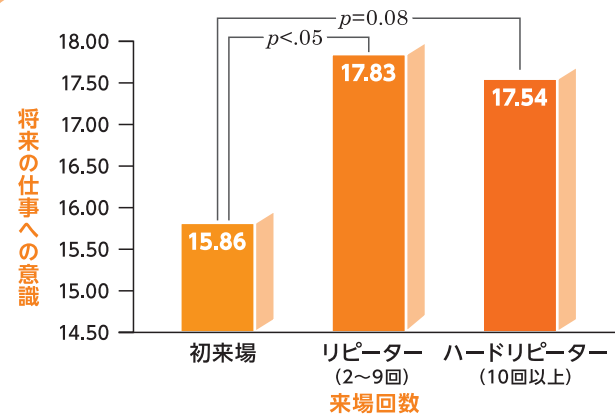
研究1 キッザニア来場者の質問票調査

●キッザニア東京オフィシャルサイトにアンケート公開
●81問の設問に回答 ●2012年11月～2013年1月に調査を実施

1 将来の仕事への意識と来場回数

有効回答数:422人
初回来場者数:48人／リピーター:206人／ハードリピーター:168人

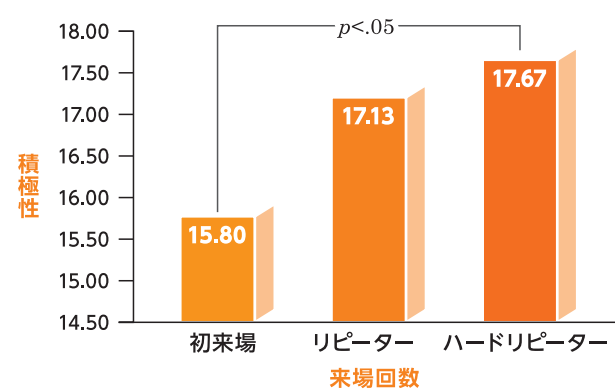
- 質問項目 ● お子さんと将来の夢やなりたい職業の話をする。
● どうすればなりたい職業に近づけるか聞かれる。など



初来場の子どもに比べリピーターの子どもは、親と仕事についてよく話をするという結果が見られました。キッザニアでは1回の体験に15分～40分の時間がかかるため、来場1回で体験できる職種は5～7種類程度。したがって来場回数ごとに職業やサービスの体験数が増え、興味と意識が増加すると考えられます。
($F(2,358)=3.28, p<.05$)

2 積極性と来場回数

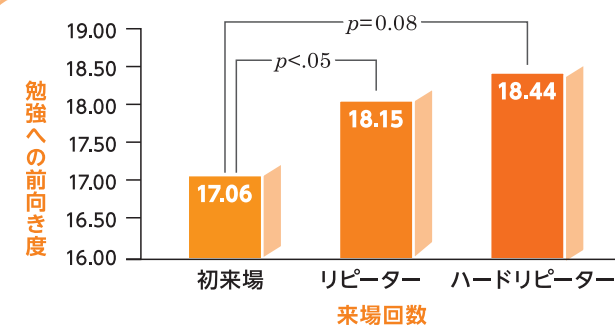
- 質問項目 ● 知らない子とでも一緒に遊べる。
● 新しいことをやってみたがる。など



初来場の子どもに比べ、ハードリピーターの子どもの積極性の高さが注目されます。キッザニアでは自分の意志で職業を選び、初対面で年齢も違う子ども達がチームとなり、コミュニケーションを取りながら仕事という共通目的を達成します。この繰り返しで積極性の強化に影響を与えている可能性が考えられます。
($F(2,358)=3.83, p<.05$)

3 勉強への前向き度と来場回数

- 質問項目 ● 自ら進んで宿題をする。 ● 得意な教科がある。 ● 勉強が好きである。など



ハードリピーターの子どもは、勉強に対して前向きな傾向が見られます。知的好奇心をくすぐるプログラムを体験した子どもは、勉強を通じて知識を習得したいという興味を強く持つようになるようです。
($F(2,358)=4.09, p<.05$)

研究2 高校生の質問票調査

●都内進学校の高校生63人が調査票に回答
●2012年12月に調査を実施

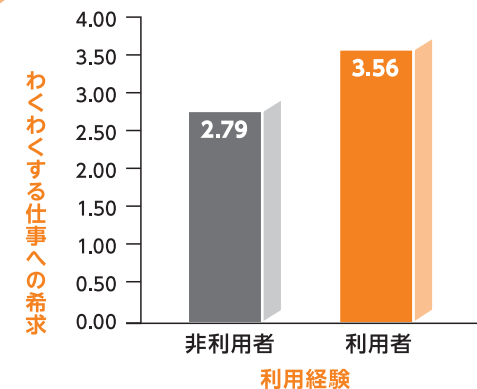
4 キッザニア認知度



90%近くの高校生がキッザニアを知っていました。有効回答数63人（男子30人・女子33人）のうち、キッザニア体験のある生徒の数は7人でした。

5 わくわくする仕事への希求

- 質問項目 ● 冒険心をくすぐられるような仕事をしたい
● リスクを感じながら仕事をしたい。など



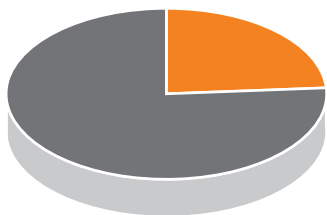
キッザニアへの来場経験がある生徒と経験のない生徒との間で、大きく差がでたのが「わくわくする仕事への希求」です。体験者数は7人と限られていますが、希求得点は有意に高い結果がでました。キッザニアでは仕事の楽しさや達成感などをエンターテインメント性をもって訴求していることが、仕事選びにも反映されていると思われます。

($F(51,48)=5.40, p<.05$)

研究3 大学生の質問票調査

- 私立4年生の大学1年生141人が調査票に回答
- 2013年1月に調査を実施

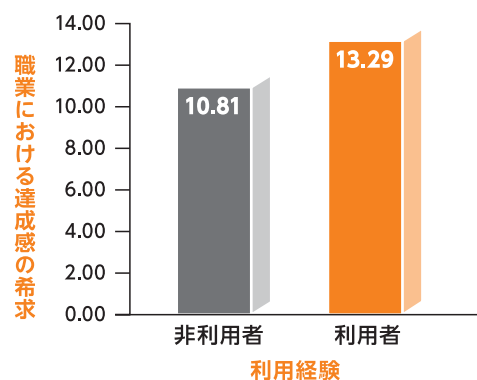
6 大学生のキッザニア認知度

知らない
76%知っている
24%

キッザニアを知っていると回答したのは24%。有効回答数141人(男子39人・女子102人)のうち、キッザニア体験者は7人でした。日本にオープンして7年のキッザニアですが、大学生にも体験者が見られるまでになりました。

7 職業における達成感の希求

- 質問項目
- 高いレベルの仕事をする事。
 - 何かをやりとげたという感じを持つこと。など



キッザニア体験のある対象者の方が、職業における達成感の希求得点が有意に高い結果となりました。キッザニアの職業体験は、年齢に合わせたそれぞれのレベルで達成感が感じられるように設計されています。比較的高学年でキッザニア初体験を行ったと思われる大学生にも、キッザニア体験の影響がしっかりと残っているのではないかと考えられます。

($F(1,126)=7.12, p<.01$)

本調査は、APTA (アジア太平洋観光学会) で発表されました。

環太平洋圏より17の国より研究者160名以上が集い、観光とホスピタリティに関する発表とディスカッションを行う、APTA (Asia Pacific Tourism Association) 第19回大会が2013年7月タイのバンコクで開催されました。

キッザニア体験とこどものキャリア意識の発達に関する、KCJ GROUPと立教大学小口孝司教授による共同研究の成果の一端が、小口教授により発表されました。他国におけるキッザニアに類した施設の情報や研究についての質問やコメントが多く寄せられ、積極的な討論が繰り広げられました。



立教大学・小口教授によるAPTA学会での発表風景

キッザニアの職業体験がこどもに与える影響の、
第三者機関結果による検証

第1弾研究を第三者機関調査により検証

KCJ GROUPと立教大学現代心理学部小口研究室との第1弾調査研究により、「キッザニアにおける職業・社会体験は、こどものキャリア意識を高める」ことが明らかになりました。しかし、現段階では調査対象者や範囲も限定的であることから、この結果をさらに明確なものとするために、第三者機関に調査を依頼し、先の結果を検証することにいたしました。

調査を依頼した内容

今回は調査機関として、ネットリサーチ会社である株式会社マクロミルに依頼。第1弾研究を踏まえて、以下の内容をさらに調査検討しました。

■検証1

「第三者機関によって得られたデータが、第一弾研究調査データと同様の結果を示すかを検討」

■検証2

「データ数の少なかった高校生・大学生のデータを補てんし、結果の信頼性を向上させる」

■検証3

「キッザニアを利用することによるこどもの変化に着目し、前後、または回数でどのような変化があるのかを明らかにする」

調査の方法

インターネットを使って、全国調査を行いました。調査対象となったのは、1「高校生・大学生578人」と2「小学5・6年生のこどもを持つ保護者824人」です。

高校生・大学生向け調査票では、「職業レディネス※2」を中心に回答を求めました。

小学生の保護者向け調査票では、「養育態度尺度」「親役割診断尺度(関与・重要・分離不安・自立促進・適応援助・自信)」「職業観(対人関係志向・待遇地位志向)」「こどもの成長尺度(勉強・親子コミュニケーション・積極性・金銭感覚)」※3等への回答を求めました。

※2「職業レディネス」とは
限定された職業領域に対して、強い選択への関心を持ち、それに対して現実的、主体的に向き合う程度のこと。ひとりひとりが、自分の将来の職業を選ぶにあたってどのくらい心理的に準備が出来ているかを調べるためのものとして、「職業レディネス・テスト」などが開発されています。

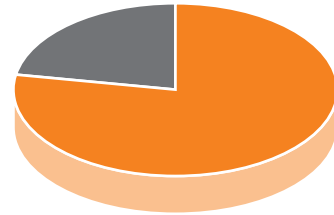
※3「尺度」
今回の調査では、高校生・大学生向け調査票では、「職業レディネス尺度(若林・後藤・鹿内, 1983)」、「職業観(谷田, 2007)」を使用。また、小学生の保護者向け調査表では「養育態度尺度(中道・中澤, 2003)」「親役割診断尺度(谷井・上地, 1993)」、「職業観(新見・前田, 2009)」。「こどもの成長尺度(独自に作成)」を使用しました。

高校生・大学生への質問表調査

●インターネット調査 ●有効回答数578人 ●2013年6月に調査を実施

1 非利用者のキッザニア認知度

質問項目 ● キッザニアを知っていますか。

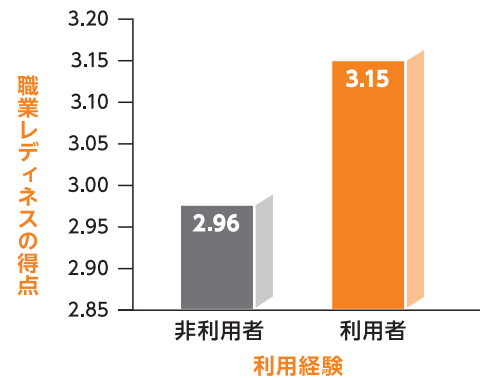
知らない
22%知っている
78%

「キッザニアを知っていますか」の質問をしたところ、全体の4分の3を超える78%が知っていると回答しました。キッザニア体験経験があるのは578人中266人でした。

2 職業レディネスと利用の有無

質問項目 ● 自分の就きたい職業は前から決まっており、現在でもそれに向かって準備を進めている。

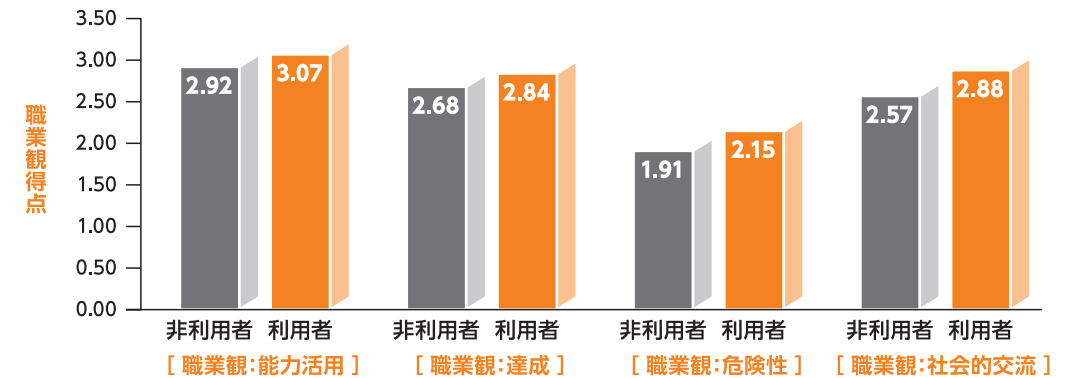
- 職業を選ぶうえで、自分の興味に合い、やりがいを感じる職業であるかを見極めることが最も重要である。など



キッザニア体験経験があると答えた群と非利用者の群とを比較したところ、体験経験のある群の方が職業レディネス得点は有意に高いという結果が得られました($t=4.93$ $p<.01$)。高校生のみ大学生のみの比較も行いましたが、どちらも利用経験者の得点が高い結果となりました。この調査結果は関係者予想を超える大きさであり、驚きをもって受け止められました。

3 職業観と利用の有無

質問項目 ● 「能力活用」「達成」「危険性」「社会的交流」の項目別に調査。

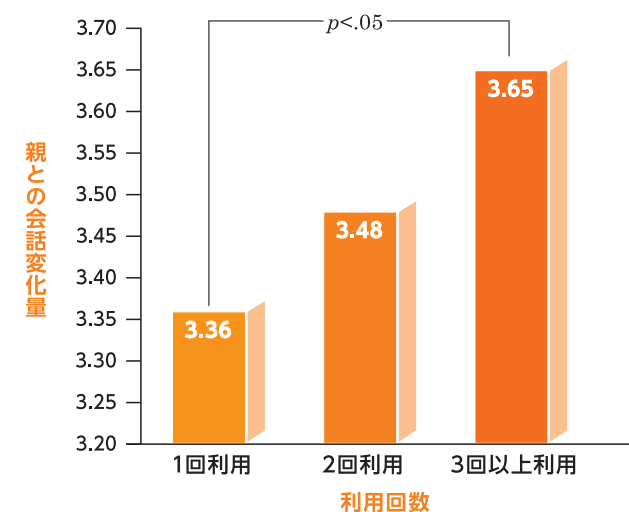


職業観の項目すべてで、非利用者よりも利用者の方が得点が高いという結果となりました。また、同様の項目を高校生と大学生で比較したところ、すべての項目において大学生の利用者群が他の群よりも有意に得点が高いという結果がでています。($t=2.52$, $t=2.58$, $t=3.14$, $t=4.25$, $p<.01$)

4 親との会話変化量と利用回数

●利用回数 1回利用者:169人 2回利用者:60人 3回以上利用者:37人

- 質問項目 ● 自分の就きたい職業について親と話をすることが増えた。
- 家族の仕事について親と話をすることが増えた。
 - 世の中の仕事について親と話をすることが増えた。など

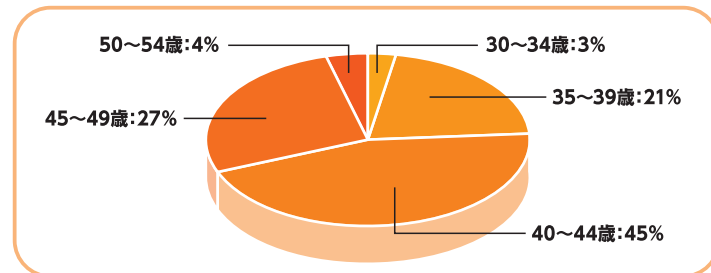


親との会話量の変化をみたところ、キッザニアを1回のみ利用した群よりも、3回以上利用した群が、親との会話変化量が有意に大きいという結果でした。
($F(2.263)=4.00$, $p<.05$)

小学生5・6年生のこどもを持つ保護者への質問表調査

●インターネット調査 ●有効回答数824人
●非利用者:412人／利用者:412人 ●2013年6月に調査を実施

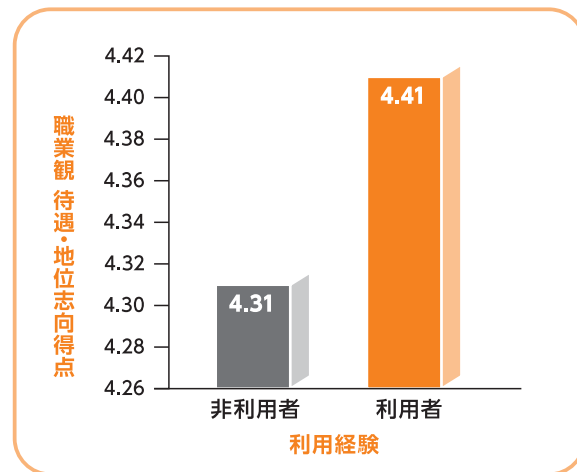
1 回答者の年齢分布



全員が小学5・6年生のこどもを持つ保護者であり、その年齢分布は40代が最も多く、合計で70%を越えています。

2 待遇・地位志向と利用の有無

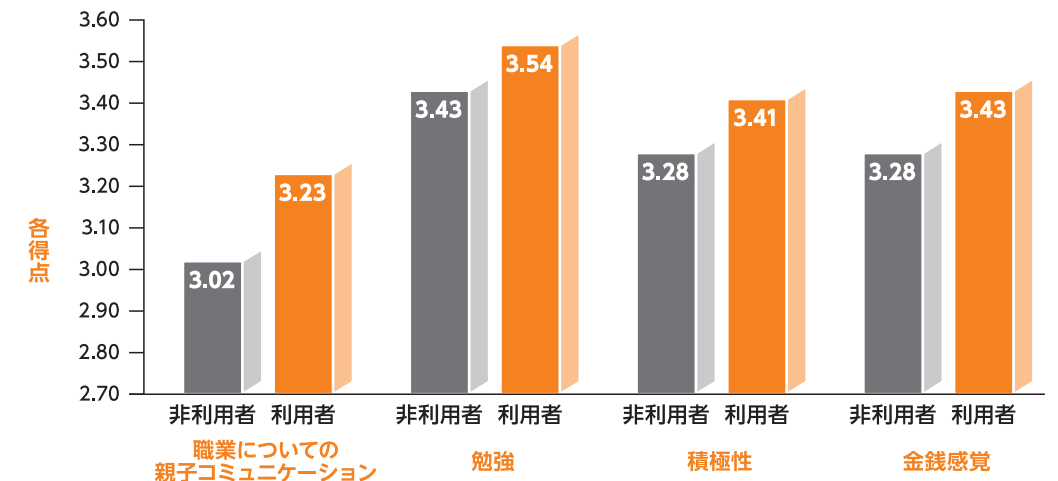
- 質問項目
- たくさんの人の役に立つこと。
 - 家族に喜んでもらうこと。
 - 一緒に仕事をする事。
 - お金をたくさんもらうこと。



保護者の職業観として待遇・地位志向の得点は、非利用者の得点よりも利用者の得点が有意に高い結果となりました。また、「生活態度を注意することが多い」「自分にとって大事なことを自分で決定できる」「良い友達とつきあうように配慮してきた」などの項目でも利用者の得点が高いという結果がでています。

($F(1,822)=4.67, p<.05$)

3 親子コミュニケーション・勉強・積極性・金銭感覚と利用の有無



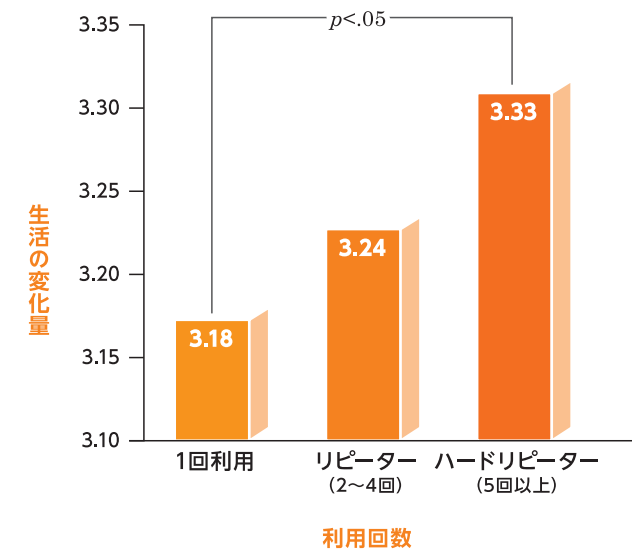
「親子コミュニケーション」「勉強」「積極性」「金銭感覚」のすべての項目に置いて、非利用者よりも利用者の得点が有意に高いという結果となりました。

($F(1,822)=15.14, F(1,822)=11.78, F(1,822)=8.33, F(1,822)=10.94, p<.05$)

4 生活の変化量と利用回数

●1回利用:144人／リピーター:189人／ハードリピーター:79人

- 質問項目
- チャレンジする気持ちを持つことが増えた。
 - 自立して行動することが増えた。
 - 協調性のある行動をすることが増えた。など



1回利用の群よりもハードリピーター (5回以上利用) の群が、有意に大きく生活がよい方向に変わっていたという結果でした。

($F(2,409)=3.93, p<.05$)

総合考察

高校生・大学生の場合

キッザニア体験者と非体験者を比較すると、幼少期にキッザニア体験があることにより就職を意識しはじめる大学生になった時に、職業レディネス（職業に対する意識）が高まるということが分かりました。小さい頃ははっきりとは分からなかった職業意識が、利用経験がある群では、実際に必要とされる状況に置かれたときに、大きく発揮されるという結果となりました。これらは、こども達がさなごの時期を経て劇的に成長をみせるというような「大きな力」を感じさせます。そうした「羽化」にキッザニアがかかわれるという結果は、キッザニアの運営に携わる者としては、うれしい限りです。キッザニア体験を通じたキャリア教育は、体験後の家庭や学校での変化だけでなく、むしろ就職に直面する時期にこそ効果を出すものなのかもしれません。

また、繰り返しキッザニアを体験したこども達は、親子間の会話が多くなるという傾向がみられました。キッザニアを利用している親子は、会話が増え、関係性が良好であるようです。思春期などの難しい時期にも、キッザニア利用による親子コミュニケーション活用は有効なのではないかと思われます。

小学5・6年生のこどもを持つ保護者の場合

キッザニア利用経験のある保護者は、非利用者と比べて、親の役割としてこどもへの関与が高く、自立促進的・適応援助的であることが分かりました。こどものことを気にかけ、注意することも多いが、同時にこどもの自立を援助できるような保護者像が見てとれます。

また、自分のこどもの職業に関する考え方に関して、「待遇や地位志向」が高い傾向にあり、自身でも積極的かつ勉強への姿勢、金銭感覚が高いと考えている人が多いようです。

さらに、キッザニアを5回以上利用したことのあるハードリピーターでは、「チャレンジ精神や自立心、協調性が高まった」と認識している傾向があることが分かりました。キッザニア体験は複数回利用することにより、変化量が大きいということが言えそうです。

保護者からみた親子コミュニケーション状況を調査すると、高校生・大学生ほどの会話量変化は見ることができなかったことから、通常親子のコミュニケーションが少なくなる高校生・大学生の時期に、キッザニア体験の影響が発現するのかもしれません。

02

キャリア教育実践プログラム 効果の事前・事後検証。

テキストマイニングによる大学機関との共同研究

キッザニアでは、キッザニア東京・キッザニア甲子園の両施設を活用した「キャリア教育実践プログラム」を、学校現場におけるキャリア教育のサポート事業として実施しています。これまで多くの小・中学校の皆様にご体験いただきましたが、体験後の感想として「生徒達の意識が変わった」とのお言葉を数多くいただきました。KCJ GROUPでは、これを受けた「こども達の仕事への意識変化」についての調査を行い、このたびデータ検証が終了いたしました。前頁「01」の研究に引き続き、立教大学の小口教授にご協力いただいた研究内容の一部をご紹介します。

研究協力: 立教大学 現代心理学部 小口孝司教授



© KidZania

キャリア教育実践プログラム(事前・事後学習プラン)のご紹介

「キャリア教育実践プログラム」は、キッザニアでの職業・社会体験を中心に、ワークシートによる事前学習や事後学習を加えた、小学校・中学校むけの専門プログラムです。事前学習で「活動の目的意識」を持ち、事後学習で「体験したことを定着させる」という流れにより、児童・生徒達の学びや気づきを深めます。



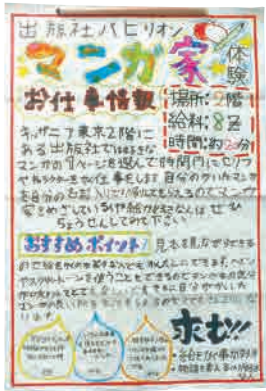
ワークシート活用例 キッザニアでは、授業で活用いただけるワークシートなどを用意しています。

「キャリア教育実践プログラム」より、ワークシートの一部を紹介



※写真は、2012年度版ワークシートです

事後学習の紹介



▲小学校6年生「ポスター お仕事紹介」



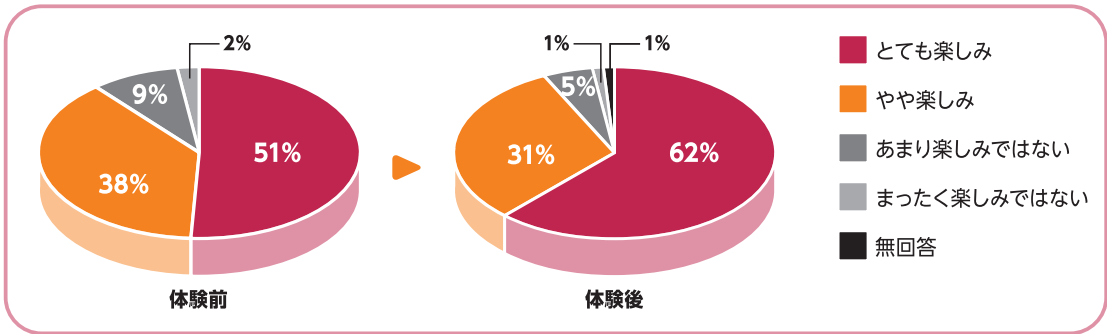
▲小学校6年生「キッザニア体験新聞」



▲小学校4年生「レポート 将来目指す職業・目指す自分」

2012年度 キャリア教育実践プログラム実施校における学習効果について

Q 将来、働くことが楽しみですか？



「キャリア教育実践プログラム後」の 「仕事」に対する意識変化についての検証

「キャリア教育実践プログラム」後の変化

「キャリア教育実践プログラム」にお申し込みいただいた教育関係者の皆様より、「キッザニア体験後に、生徒達の仕事に対する意識が変わったようだ」という評価をいただいたことから、「事前学習」→「キッザニア体験」→「事後学習」という一連のプログラムを体験した子ども達には、実際にどのような変化があったのかを、学習で使用したワークシートを活用して検証を行いました。

立教大学・現代心理学部の小口研究室に協力いただき、分析方法にはTRUE TELLER®というテキストマイニング※1のプログラムを使用しています。

事前の仮説

テキストマイニングの分析については、以下を事前の仮説として設定し検証を行いました。

■キッザニアで職業体験を行うことにより
仮説1

「仕事」に関するイメージのボリュームが増えるのではないか？（～量的な変化）

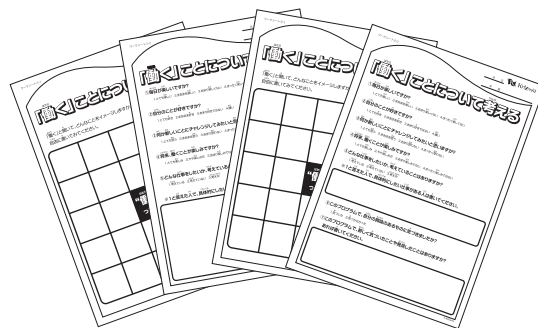
仮説2

「仕事」に関して「しんどい」「疲れる」などのマイナスイメージから、「楽しい」「やりがいがある」などのプラスイメージへの変化があるのではないか？（～質的な変化）

調査の方法

調査対象者は、2012年に「キャリア教育実践プログラム」を利用していただいた、小学生174人です。

●分析に使用したワークシート



※1「テキストマイニング」とは
“マイニング”とは“発掘”という意味の単語であり、文章で書かれたデータや会話のログやアンケートのデータなどから、単語やフレーズを分解し、言葉の頻度や相関を分析することにより、問題点や有用なデータを取り出す手法のこと。商品評価やサービス改善などの現場などでも利用されています。

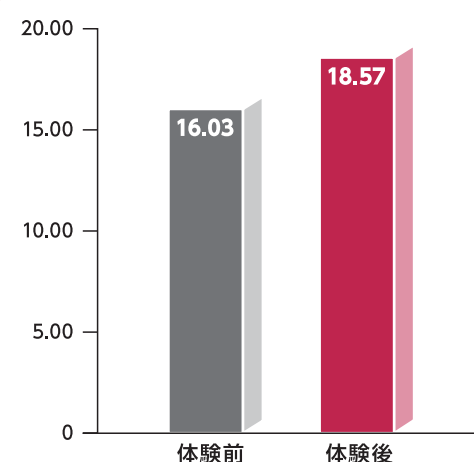
KCJ GROUPと小口研究室によるテキストマイニング分析

●検証：事前・事後学習のワークシート調査によるテキストマイニング ●有効回答数174人

「キャリア教育プログラム」の事前・事後学習で活用するワークシートを使って、キッザニア体験の前と後で、子ども達の「仕事」に対するイメージがどのように変化しているかを探りました。キッザニア体験後、子ども達の多くは、「仕事」をポジティブなイメージで捉えるようになっていました。

1 「仕事」に対するイメージの回答数の変化

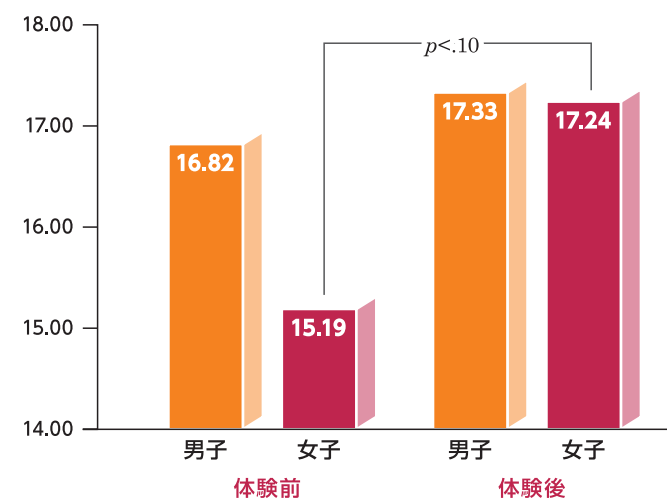
図1：キッザニア体験前後の仕事に対するイメージの回答数（性別不明も含む）



「仕事」に呈するイメージの回答数、キッザニア体験前では平均16.03件、体験後は平均18.57件となり、体験後にイメージ回答数が増える結果となっています。

($t(170)=4.16, p<.01$)

図2：性別とキッザニア体験前後における仕事イメージの回答数



次に、「性別」で分けて分析してみました。体験前・後の回答数差は、女子が大きく増えています。（平均15.19件→平均17.24件）。働く女性が増えている現状でありながらも専業主婦などの選択肢もあるため、女子の事前の仕事へのイメージは男子よりも希薄なのではと考えられます。
($F(1,118)=3.15, p<.10$)

2-1 キッザニア体験前と後での出現ワードの違い

キッザニア体験の前と後で出現する「特徴的ワード」の違いを見てみると、体験後の方が大きくワードの数がふえて、「仕事」に関するイメージが多様多様に広がっている様子がうかがえます。

体験前に想起されやすいワード

	体験後	品 詞
1	大人	名 詞
2	アルバイト	名 詞
3	スーツ	名 詞
4	残業	名 詞
5	下克上	名 詞
6	転職	名 詞
7	つらい	形容詞
8	かせぐ	動 詞
9	きる	動 詞
10	お父さん	名 詞
11	てつ夜	名 詞
12	倒産	名 詞
13	クールビズ	名 詞
14	疲れる	名 詞
15	歩く	動 詞
16	てんきん	名 詞
17	酒	名 詞
18	めんどくさい	形容詞
19	赤字	名 詞
20	電車	名 詞
21	出張	名 詞
22	退職	名 詞
23	給料日	名 詞
24	リストラ	名 詞
25	養う	動 詞
26	苦しい	形容詞
27	しゅうしょく	名 詞
28	店	名 詞
29	満員	名 詞
30	車	名 詞
31	得る	動 詞
32	しかられる	動 詞
33	あつい	形容詞
34	いやだ	形容詞
35	労力	名 詞
36	どりよく	名 詞
37	約	名 詞
38	資格	名 詞
39	ネクタイ	名 詞

体験後に想起されやすいワード

	体験後	品 詞		体験後	品 詞
1	楽しい	形容詞	38	感謝する	動 詞
2	考える	動 詞	39	むずかしい	形容詞
3	おもしろい	形容詞	40	チャレンジ	名 詞
4	成功	名 詞	41	苦労	名 詞
5	笑顔	名 詞	42	やる	動 詞
6	学ぶ	動 詞	43	仲間	名 詞
7	興味	名 詞	44	する	動 詞
8	大切	名 詞	45	ある	動 詞
9	コミュニケーション	名 詞	46	できない	動 詞
10	せきにん	名 詞	47	出世する	動 詞
11	絆	名 詞	48	おしえる	動 詞
12	うれしい	形容詞	49	接する	動 詞
13	みんな	名 詞	50	技術	名 詞
14	大きい	形容詞	51	気持ち	名 詞
15	責任	名 詞	52	つくる	動 詞
16	感謝	名 詞	53	よろこぶ	動 詞
17	敬語	名 詞	54	物	名 詞
18	やりがい	名 詞	55	お客さん	名 詞
19	命	名 詞	56	守る	動 詞
20	アイデア	名 詞	57	人	名 詞
21	話す	動 詞	58	わくわく	形容詞
22	心	名 詞	59	立てる	動 詞
23	制服	名 詞	60	くやしい	形容詞
24	成長	名 詞	61	役立つ	動 詞
25	助け合い	名 詞	62	やさしい	形容詞
26	計画	名 詞	63	ほしくない	形容詞
27	あいさつ	名 詞	64	改める	動 詞
28	気	名 詞	65	わく	動 詞
29	聞く	動 詞	66	もつ	動 詞
30	つながり	名 詞	67	信	名 詞
31	しゅみ	名 詞	68	ふえる	動 詞
32	可能性	名 詞	69	考え	名 詞
33	声	名 詞	70	体力	名 詞
34	新しい	形容詞	71	言葉	名 詞
35	失敗	名 詞	72	調べる	動 詞
36	相手	名 詞	73	くろう	名 詞
37	がまん	名 詞	74	発見	名 詞

■キッザニア体験前は、親や世間一般からの影響を受けやすいと推測される「名詞」が中心にあげられていますが、体験後は自分自身の感覚でとらえた「動詞」が多くあげられるようになっています。

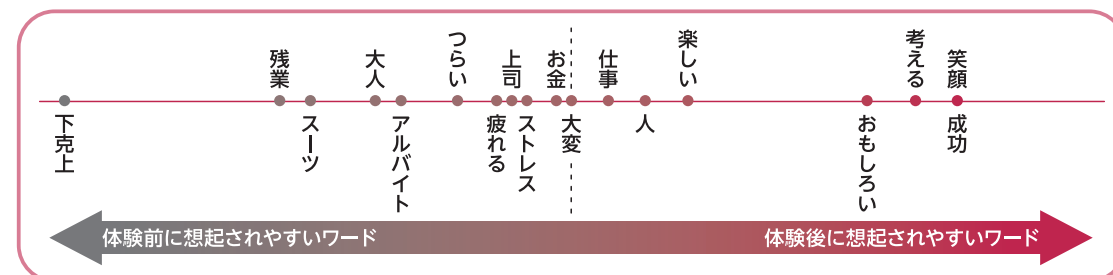
■特に体験後は、「人」「仲間」などのコミュニケーションの大切さや、「責任」「やりがい」などがあげられており、こども達にとって表面的な知識では得られない「仕事」の能動的な側面を意識させていると言えるでしょう。

2-2 キッザニア体験前と後の出現ワードの変化

「仕事」に対するイメージワードを抽出しました。仮説通り、キッザニア体験の前には、「つらい」「疲れる」などのネガティブワードが多くあげられていましたが、キッザニア体験後は、ネガティブなものは減少したのに代わって、「楽しい」「考える」「おもしろい」といったポジティブなワードが増加していました。キッザニアのアクティビティでの成功体験が、仕事に対するポジティブなイメージをもたらしたと考えられます。

	体験前	体験後
お金	150	147
楽しい	84	137
大変	100	100
疲れる	88	67
つらい	75	48
大人	73	38
人	46	61
上司	54	43
仕事	39	44
ストレス	43	33
アルバイト	43	20
スーツ	22	6
残業	25	8
下克上	9	0
考える	6	30
おもしろい	7	31
笑顔	3	22
成功	3	22

体験前後の対応分析



※対応分析とは、質的データを分析する多変量解析の手法で、関連の強いカテゴリーは近くに、弱いカテゴリーは遠くにプロットされ、データの傾向を直感的に読みとることができます。

まとめとして

KCJ GROUPでは、「キッザニア体験を通じた、こどもの成長」についてアカデミックかつ客観的に分析したいとかねてより考えておりましたが、今回、立教大学現代心理学部の小口教授との出会いから、テキストマイニングという手法を取り入れることができました。調査では、こども達がキッザニアを体験する前と後での、仕事に関する自分自身の「印象」を言葉で表現したものを利用してあります。

結果は、「キッザニア体験は、こども達の仕事に対する積極的な姿勢を生みだすために役だっている」という確証を客観的な検証データとして得ることができました。私達の当初の予想通りの結果となったことは、大変に嬉しいことでした。今後も、さらなる検証を重ねるとともに、これらの結果を施設運営に還元し、キッザニアを進化させてまいりたいと考えております。

これからの研究・検証といたしましては、「施設内でのこども達の行動の変化」など、新たな観点からの調査項目も加えて、引き続き「キッザニア体験とキャリア教育」に関する研究を行ってゆく予定です。まだ少し先のことにはなりますが、新しい機会を得て皆様にぜひご紹介したいと思います。

キッズニア東京体験学習による「中学生の自律的学習動機調査」が発表されました。

キッズニアでは中学生を対象とした特別プログラムを実施するなど、中学生のキャリア教育サポートにも力を入れています。このたび、町田市立鶴川第二中学校の山田智之先生による「中学生の自律的学習動機調査」が2013年8月「日本教育心理学会第55回総会」にて発表されました。私共の施設を対象とした貴重な調査データをいただきましたことを感謝いたします。

キッズニア東京の体験学習による中学生の自律的学習動機の変容

町田市立鶴川第二中学校 山田智之先生

■研究の目的■

学習に意義を見いだせず意欲低下することも達に対して、文部科学省ではキャリア教育の充実を打ち出している。職業・社会体験施設キッズニアは、中学生に学習動機効果を与えることができるのかを検討する。

■結果■

自律的学習動機は、①外的調整（やらないと怒られる・みんながしている等）、②取り入れの調整（友達に負けたくない・かっこいいと思われたい等）、③同一化的調整（将来の成功につながる・希望の学校に進みたいから等）、④内的調整（問題を解くのはおもしろい・難しいことに挑戦するのは楽しい等）の4つの尺度から成り立ち、①→④に進むほど自律的傾向が強いとされるが、キッズニア体験を行った中学生は他律的傾向から自律的傾向へと変容が見られることが分かった。

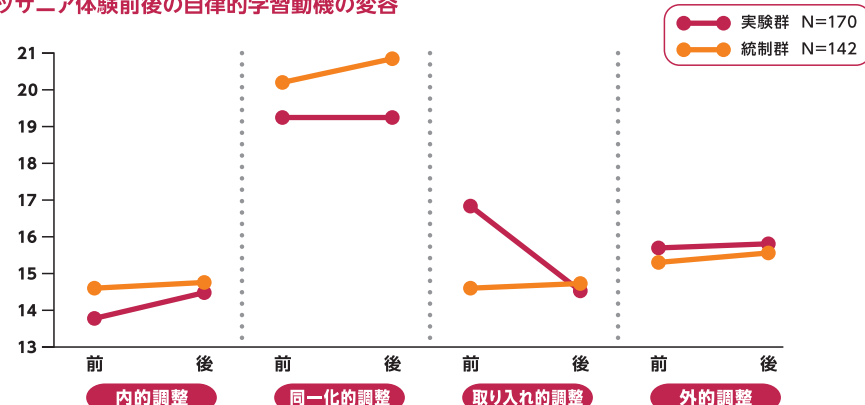
■研究の方法■

キッズニア東京で体験学習を行ったA中学校208人と、通常授業のみ行ったB中学校177人を対象として、質問に答えるWeb調査を実施。

■考察■

キッズニアにおける職業体験学習は、中学生の学習習慣の定着を促進する働きがあることが考えられる。

キッズニア体験前後の自律的学習動機の変容



■体験した生徒の感想■

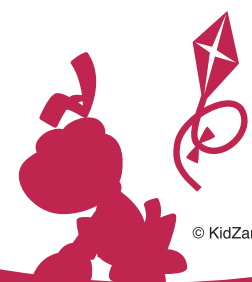
・興味がなかった仕事でも、いざやってみたら楽しかったりするから、いろいろやってみないと分からないと思った。
 ・大人は好きなことができて羨ましかったけど、大変だと分かったので、もっと親に感謝しようと思いました。
 ・いろいろな仕事を体験して、こんなことまで気をつけているということを知ることができて良かった。

03 KidZania Episode

こども達がキッズニア体験で出会ったものは

私達のもとには、これまでキッズニアに来場された保護者の方や学校関係者の皆様からのたくさんのお手紙やメッセージが寄せられています。キッズニアの体験を通じて「こども達が出会ったこと、気づいたこと」、「大人達がこども達に気づかされたこと」など、私達のもとに届いた多くのエピソードの中から、ここに一部をご紹介します。

キッズニアエピソードは、キッズニアのオフィシャルサイトやキッズニアFacebookでも紹介させていただいております。ぜひこちらも合わせてご覧ください。



© KidZania



EPISODE 07
ki-mamaさん

「夢の実現への思い」

娘の夢は外科医。テレビで見て、「私はこの人みたいになる！」と叫んで早9年。キザニアに病院の仕事があると知り、最初の頃は入場と同時に病院に直行。「任務」を果たして満足した後は、他のお仕事を楽しむのが定番でした。キザニア歴5年以上となり、「将来、外科医になるから、今のうちに他の仕事をたくさん体験する方がいいね」と病院以外のお仕事を楽しむことが多くなりました。そろそろキザニア卒業に近づいてきましたが、「やっぱり外科医の仕事が一番楽しい。絶対になる！」とのこと。キザニアで夢の実現への思いがより強くなったようです。これからも夢に向かって頑張れ!!



EPISODE 08
ユウナさん

「小さな奇跡の起こる街」

【小さな奇跡の起こる街】

極端な五感の過敏症やこだわりの障碍特性を抱える自閉症の息子が、お仕事体験を通じて、偏食や聴覚等の過敏性を克服。興味範囲も広がり、調理、自作フード完食、楽器演奏、運転や操縦、ガイド、モデル、ナビ、出演者、クライミング、制作等々を心から楽しみ謳歌しているのだから驚き!! 豊富なお仕事体験、お友達から得る刺激、息子を快く迎え見守り続けてくださるスタッフとの触れ合いや信頼感が、息子の好奇心をくすぐり、チャレンジ精神を育み、言葉や情緒も豊富に。息子が巻き起こす小さな奇跡の連続に、両親共に感動と感謝で胸が熱くなります。息子の瞳は輝き、真剣な眼差し、満面の笑顔、自信満々のどや顔と、いろいろな表情を見るのも密かな楽しみです。息子はキッズニアと共に成長してきたと言っても過言ではないと思います。



EPISODE 09
あーちゃんおとんさん

「パパみたい」

ママと2人でキザニアに行ってきた娘が、帰ってきて「今日、パパみたいなのしたよ。」と言。何のことかと思ったら、医薬研究所でハンドクリームの開発をしてきたようです。時々、私の職場に遊びにくることがある娘は、同じような雰囲気のパピリオンに、私の職場を重ね合わせたのでしょう。まだまだこどもと思っていた娘が、私の仕事に関心があつたことに驚いたと共に、自ら体験して理解を深めたことが、とてもうれしかったです。これで、娘も研究者のタマゴかなあ？



EPISODE 10
ともちっちゃん

「僕のおじいちゃんの仕事」

「僕のおじいちゃんの仕事」

僕のおじいちゃんは大工さんです。いつも外で仕事をしています。毎日、作業着がすごく汚れて帰ってきます。おじいちゃんの仕事を見たことがなかったので、どうして汚れているのか分かりませんでした。この前、キッザニアで建設現場のお仕事をしました。僕はクレーンを動かしました。おじいちゃんもショベルカーで材料を運んだりして家を建てたり、道路を作っているそうです。おじいちゃんの仕事着が汚れているのがどうしてなのか、よく分かりました。暑い日は、汗をかきながら一生懸命仕事をしているからです。おじいちゃん、いつもごきげんさまです。僕達のためにありがとう。



EPISODE 11
Sunnyさん

「一生懸命練習していた」

4歳の娘は、自分の名前が書けるようになったばかり。ある日、「ママ、"き"って、
どうやって書くん?」と聞いてきました。しばらくすると「ママ、"だ"ってどう
やって書くん?」「ママ、"が"ってどうやって書くん?」と何度も聞いてきます。
ずいぶん積極的に練習するなあと不思議に思っていました。娘の練習の成果が
分かったのは、キツザニアで名刺屋を体験した時です。終了後、「ママ、はい!」と
渡してくれた名刺には、「[ママがだいすき]」の文字が!! 気持ちを伝えたくて
一生懸命練習していたと分かって、とてもうれしく思いました。この名刺はママ
の大切な宝物です。



EPISODE 12
ひみさん

「娘の中で何かが変わった」

「娘の中で何かが変わった。」と小さい頃から引っ込み思案な7歳
様々なイベントでも「見るだけでいい。」と言いだしたキッズアニアで転機がおとず
の娘。そんな彼女が自ら「行きたい!」と言いだしたキッズアニアで転機がおとず
れました。一番最初に体験したガソリンスタンドで元氣よく声を出しているうち
に、娘の中で何かが劇的に変わったんだと思います。ある夏休みに介護施設を
訪問し、自ら考えたプログラムを進行。大きな声で自己紹介、歌と踊りを披露
し、おばあさん一人ひとりと握手をして帰ってきました。おばあさん達からのた
くさんの「ありがとう」は、キッズ以上の喜びのようでした。キッズアニアを体験し
たことで実社会に飛び出した娘。これからも「ありがとう」を感じながら成長し
ていくのだと思います。



EPISODE 13 てんてこまいさん

「初めてのキッザニア」
新一年生を対象にした日に参加しました。みんなお友達と来るのでは？一人で参加しても大丈夫かな？…親の心配はよそに、娘は待ち時間で隣にいた女の子と意気投合し、一緒に回ることに。お互い興味のあるパビリオンを交互に選んで、楽しく過ごしました。遊園地だと笑顔だけだけど、キッザニアでは、考える真剣な目、話をきちんと聞く様子、達成感のある顔、いろんな姿を見ることができました。これもスタッフの方が、こどもを一人前として対応してくれているからだと思います。距離をおき、口を出さずに見守ること。簡単のように日常ではなかなかできません。改めて考えさせられる一日でした。



EPISODE 16 イエティさん

「体育が大嫌いでした」

私が好きな仕事は、クライミングビルディングです。運動神経に自信がなかった私は、体育が大嫌いでした。初めてキッザニアでクライミングビルディングを見た時、天井にある赤いランプを押したことが「ブラボ～」と言ってもらっている声に、ドキドキしました。「あの赤いランプを押したい。でもできるかな。」と迷っていた時に、「やってみませんか？」と声をかけられました。私は何度も足を滑らせ、手が離れる度に、「がんばって！」の声に励まされました。天井にある赤いランプを押せた時は、本当にうれしくて涙がでそうになりました。あれから大嫌いだった体育を、できないと何度でも練習するようになりました。4年後、私は中学校でゴルフ部に入り、秋の大会を目指して夏休みは毎日練習しています。



EPISODE 14 たむちゃんさん

「小学生のお兄ちゃん」

3歳になったばかりの娘は大好きなピザ作りに挑戦。お仕事を待つベンチには小学生ばかり…。私はまだ早かったかなあと不安な気持ちでいました。ところが娘の横に座った小学3・4年生くらいのお兄ちゃんが、娘のことをずっと気にかけてくれました。順番が回ってきたときもそっと背中を押して部屋に入れてくれたり、ピザ作りが始まってからも自分の作業をこなしながら娘を手伝ってくれていました。そしてピザを焼く窯をこども達がのぞいている時、彼は背が低く見えない娘を、なんと抱き上げて見せてくれたのです。終わった時にお礼を言いたかったのですが、彼はお友達と次のパビリオンへ走り去ってしまいました。



EPISODE 17 たいりゅうママさん

「キッザニア卒業までに」

5年の歳月が流れた。小学2年生だった次男は6年生、5年生だった長男は中学3年生になった。縁あって、1周年・エコサミット・3周年・キッザニアサッカー・そして大人のキッザニアにも参加させていただいた。どれも貴重な体験で、親子でキッザニアの大ファンになっていった。2人がキッザニアを通じて得たものは計り知れない。長男が受験が終わって、真先に訪れたのもキッザニアだった。次男は自分の楽しさを友人にも広め、平日2部にはたくさんの友人を連れていった。今、2人の関心は銀行に預けている、キッソのこと。「被災地に寄付ができないかなあ」と相談をしている。そんな2人の声に私はうれしくなる。いずれ訪れるキッザニアの卒業とともに、働いてためたお金がお役に立てば、親子共にうれしい卒業となる。



EPISODE 15 かりんさん

「僕の時もあんなことしたの？」

5歳の息子が、赤ちゃんのお世話をする「看護師」に挑戦！真剣な表情ながら、赤ちゃんの頭を支えず洗面器に置いて両手で洗ったり、服からなかなか手をだしてあげられず悪戦苦闘の様子に、母は笑いをこらえて見ていました。お仕事を終えて感想を聞いてみたところ、「赤ちゃんのお世話って大変だね。僕の時もあんなことしたの？」と。「そうだよー。でもあの赤ちゃんより、もっと大きくて重かったかな。赤ちゃんって、いっぱい泣くしね。」「そうなのかあ。お母さん、お世話してくれてありがとう！」思わずウルツときました。「こちらこそ、優しいお兄ちゃんになってくれてありがとう！」と言うとニコツとして、はりきって次のお仕事へ。まだまだ甘えん坊な息子ですが、キッザニアではたくさんの成長を感じさせてくれます。



EPISODE 18 ひーちゃん母さん

「思いやりも学ぶ」

今年5歳になる一人娘はキッザニアが大好き。ある日、飲食系のパビリオンでエプロンの紐が結べずに困っている子を、娘が手伝ってあげていました。慣れないお友達と目を合わせるのが苦手だったのにがんばっていたので、「偉かったね。」と伝えと、「前に私ができなかった時、隣にいたお兄ちゃんが手伝ってくれてうれしかった。お兄ちゃんにありがとうを伝えた時は、ドキドキしたけどうれしい気持ちになった。だから、私も困っているお友達がいたら、声をかけてお手伝いをしてあげたの。」と娘が言ったのです。キッザニアは仕事の体験だけでなく、人に対する思いやりも学べる場所だと思いました。

04

スーパーバイザーが 出会ったこども達

キツザニアの街で働く、こども達の先輩。スーパーバイザー。

キツザニアのアクティビティに保護者は参加できません。こども達の職業体験をサポートするのは、スーパーバイザーと呼ばれるキツザニアのスタッフです。同じ職場の少し上の先輩としてこども達に接するため、仕事の内容を伝えるときにも同等の立場として必ず敬語で語りかけ、決してこども扱いしません。うまくできなくて困っているこどもがいる時には、「お手伝いしてもいいですか?」と話しかけるなど、こどもの自立心や意志を尊重し、自分でやり遂げることができるように見守ります。スーパーバイザーは、こどもの「気づき」を引き出す存在なのです。



© KidZania

スーパーバイザーが
キツザニアの街でであった
エピソードの一部を
ご紹介します。

団体来場した6年生の男の子2人組。未就学の男の子6人と一緒に仕事体験をすることになり、最初はやる気がなさそうな様子で心配しました。ところが、隣になった3歳の子が大泣きしてしまったときに、その子の手をつないであげて「大丈夫だよ。お兄さんも一緒に頑張るから。男だから泣かないよ。」と。男の子はびっくりにした顔をしていましたが、泣きやんで仕事をがんばりました。最後には6年生に「ありがとう」と言っていました。

パビリオン：消防署

来場してまず最初に運転免許証をとった男の子。その日のうちに、なんと12回もレンタカーに乗ってくれました。「レンタカーが好きなんですか?」と聞くと、「うん、好きだから。でもね、『また来てください』ってみんなが言ってくれるからうれしくて来てる。」と言ってくれました。何度も来てくれたので、スーパーバイザーがその子のことを覚えて声をかけていたのが、うれしかったようです。

パビリオン：カーエリア

団体来場していた、ある小学校児童のみなさん。学級委員が先導してみんなから100キッソを集めて、デパートパビリオンへ。話し合いで担任の先生に贈り物をすることにしたそうです。購入したものはボールペンやファイル、ノートなど。渡す様子は見れなかったのですが、思わず涙がでてしまいました。

パビリオン：デパート

その日のお仕事は、足腰の弱ったおばあさんの家の設計依頼でした。建築士として働くことになったこども達の中で、Aさんが代表で、シニアポーズ(お年寄りの体勢になるマジックテープ)をつけることになりました。Aさんは以前、祖母のために家を改築し、亡くなるまで一緒に住んでいたことを話してくれました。仕事が進み、検証となり、「おばあさんが歩きやすくなるための手すり」をつけることになったとき、Aさんは「病院や家の手すりには太くて丸型を使っているから、これがいよいよ。」「手を上にあげるのが大変だから、低めにつけてあげよう」と仲間に教えてあげていました。他のこども達も「あ、持ちやすい。」「駅で見たことがある」など、次々と意見を出すようになりました。こども達同士で、全員で話し合い、刺激しながら、仕事をすすめることの大切さを改めて知ることができました。

パビリオン：住宅建築現場

「やだ! やめる! やりたくない!」と泣いていた5歳の女の子。「一緒にやってみよう!」と話しかけましたが、泣きやんだものの、なかなかパビリオンの中に入ろうとくれません。その時、3人の姉弟がやってきました。1番上の女の子が「どうしたの?」と優しく話しかけてくれ、真ん中の男の子と末の女の子までが「やってみると楽しいよ〜」「大丈夫だよ!」と励ましてくれます。3姉弟の保護者の方が「お姉ちゃんも初めての時、大泣きしたのよ。私の足にしがみついて…(笑)」と話してくれました。女の子に「次の回で、こちらの方達と一緒にやってみますか?」と提案したところ、「うん! やる!」と言ってくれ、3姉弟も「もちろん!」「一緒にやろう。」とのことで、4人で仲良くお仕事してくれ、その後は4人で一緒にエコショップのパビリオンに入っていました。数時間後、女の子の保護者の方がいらして、「ねばり強く最後まで付き合ってくださったので、あの子は今、すごく楽しめています。今なんて一人でバスに乗っているんですよ!」と教えていただきました。本人・3姉弟・保護者の方・スタッフと一丸となり、みんな協力できたからこそだと思います。

パビリオン：ハンバーガーショップ

小学1年生の女の子が、ユニフォームを着ようとしていました。マジックテープを着けることに苦戦していたので、女の子のお父さんが手伝おうとしたところ、「やめてよ! こどもじゃないんだから!」と大声で叫びました。周りの保護者も思わず「おお〜」と驚いていました。

パビリオン：お菓子工場

消防署が「E@Kアクティビティ(全て英語でアクティビティを実施するプログラム)」の日。兄弟で参加してくれた二人は、高学年のお兄ちゃんが3、4歳の弟にいろいろ教えてあげていました。お仕事が終わった後で、「英語が簡単だった人?」と聞くと弟が手を挙げ、「難しかった人?」と聞くとお兄ちゃんが手を挙げていました。なぜか、高学年になるほど「難しかった」と言い、低学年になるほど「簡単だった」と答えることが多いので、いつも面白く感じています。

パビリオン：消防署

お花屋さんでアレンジメントを作る体験をしている小学4年生の女の子に、「誰にあげるんですか?」と聞くと「お父さんとお母さんがもうすぐ結婚記念日なので、お父さんとお母さんにあげます。」と答えてくれました。その隣で体験していた子も、「来月が2人の結婚記念日だから、来月お父さんとお母さんにあげるの。」と言っていました。プレゼントしているシーンを思い浮かべると心があたたかくなります。ご両親の喜ぶ顔が思い浮かびます。

パビリオン：商店街

スーパーバイザー達も研鑽を重ねています。

現在、キザニア東京・キザニア甲子園あわせて約1,400名のスーパーバイザーが勤務しています。スーパーバイザーには5つのステージ別に、必要なスキルやこどもに関する専門知識などが習得できる7教科19科目の研修が用意されており、より高い意識とスキルを兼ね備えた人材として活躍できることを目指しています。

「GLP」グローバル・リーダーズ・プログラム

キザニアは世界12カ国で展開しており、今後も多くの国でオープンが予定されています。KCJ GROUPではグローバル化の一環として、マレーシアのキザニアクアラルンプールとの交換留学制度「GLP(グローバル・リーダーズ・プログラム)」を実施しました。研修先にマレーシアが選ばれたのは、多民族国家であるため英語が準公用語であり、アジアで唯一、アクティビティを英語で実施しているからです。

キザニア東京から2名、キザニア甲子園から1名を選出。

英語による論文提出により3名のスタッフを選出しました。キザニア甲子園から参加したスーパーバイザーは入社5年目のアルバイトスタッフ。人材が核となるキザニアでは、雇用形態に関係なく、能力や資質によりチャンスを提供しています。



キザニア甲子園 運営部
パビリオングループ
ダイヤモンドステージZV
光岡 由紀子さん



キザニア東京 運営部
オペレーショングループ
デューティマネジャー
長谷川 正美さん



キザニア東京 運営部
パビリオングループ
パビリオン・マネジャー
牛来 由香里さん



マレーシア・クアラルンプールのスタッフ2名が日本で研修。

2013年9月8日〜10月5日まで、日本スタッフの自宅にホームステイしながら2人は東京・甲子園の両施設で研修を無事果たしました。10月1日に開催されたキザニア東京7周年セレモニーにも参加してもらうことができました。



右: キザニアクアラルンプール
スーパーバイザー
ムハンマド・ヌル・
ハナフィ・ビン・ノルディンさん

左: キザニアクアラルンプール
スーパー・コーディネーター
ワン・ザル・ニザム・サー・
シャー・ビン・モッド・アズミールさん



英語でアクティビティ運営にも参加。



両施設での視察・研修を実施しました。



日本の生活をホストファミリーが伝授。

おわりに

これまでキッザニアでは、こども達が環境問題に取り組む姿をまとめた「環境白書」(2008)や、日本の食料自給率をこども達が考え行動した経緯をまとめた「フードアクション白書」(2009)などの白書を刊行してまいりましたが、今回の「キッザニア白書2014」はキッザニア誕生時からの願いであった「キッザニア体験とこどもの職業意識」の関係性について取り組んだ初の白書となります。

職業・社会体験というユニークなコンセプトを持つ施設として注目をいただいている「キッザニア」について、実際にこども達の変化をみた保護者や教育関係者の方からいただいた生の声やご意見にはじまり、今回は大学の研究機関による客観的な分析データの検証までをまとめることにより、「キッザニア体験がこども達にもたらすもの」について新たな視点からの情報を皆様にご提供できたのではないかと考えております。快く本件依頼を引き受けてくださった立教大学の小口教授及び研究室の皆様には、改めて感謝を申し上げます。

キッザニアでは引き続き、様々な大学の研究機関などのご協力のもと、「キッザニア体験」の意味や現代のこども達のマインドについて多くの情報データを収集し、分析を進めております。長期にわたっての調査から今後、どのような発見があるのでしょうか。今後ともぜひご注目いただけましたら、幸いです。



代表取締役社長兼CEO

鈴木 栄一

